

かつて魔王を封印した  
伝説の大賢者サフィラ

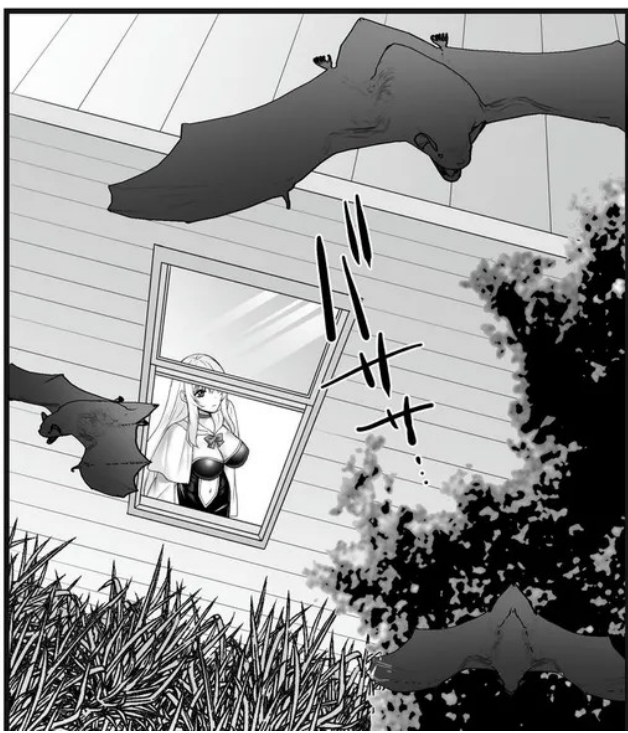
彼女は魔王討伐の  
恩賞として  
国に生活を  
保障されており

のんびりと自分の  
好きなことをしながら  
自堕落気味に  
長い時を過ごしていた

国王様からの  
勅命ですって？

はい  
サフィラ様の力を  
お借りしたいと  
仰っています

とある犯罪組織の  
摘発にご尽力ください



思ったより手強いわね

最近は使い魔への対策が  
しっかり取られているのね

昔はガバガバだったのに

それでも相手の全貌は  
かなり掴めてきたわね

それにしても  
とんでもない犯罪組織ねえ

違法薬物に奴隷調教から売買  
外来魔物の密輸に使役……

明らかに複数の貴族も  
関わっているみたいだし……

これ以上は  
使い魔で探るのは時間の無駄ね

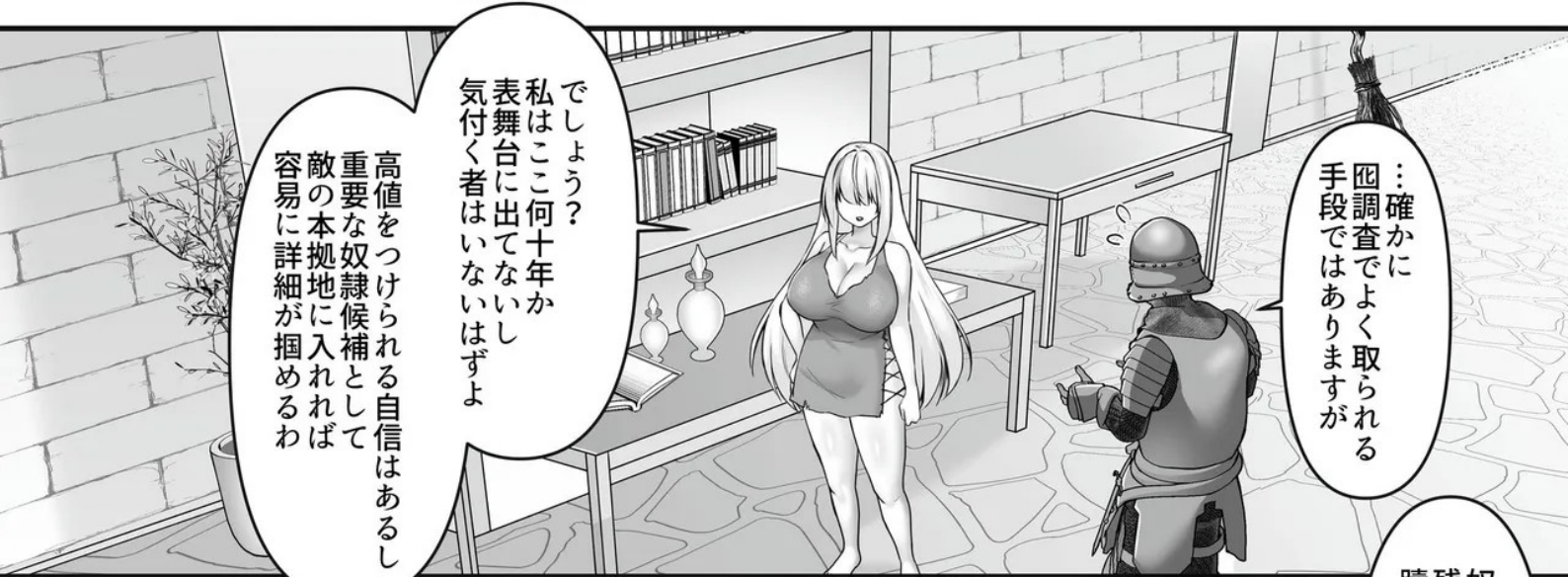
仕方ない……  
手取り早く調査を進めましょうか



…なんでそうなるんですか？

あら  
情報を得る戦略としては  
よくある手じゃないかしら？

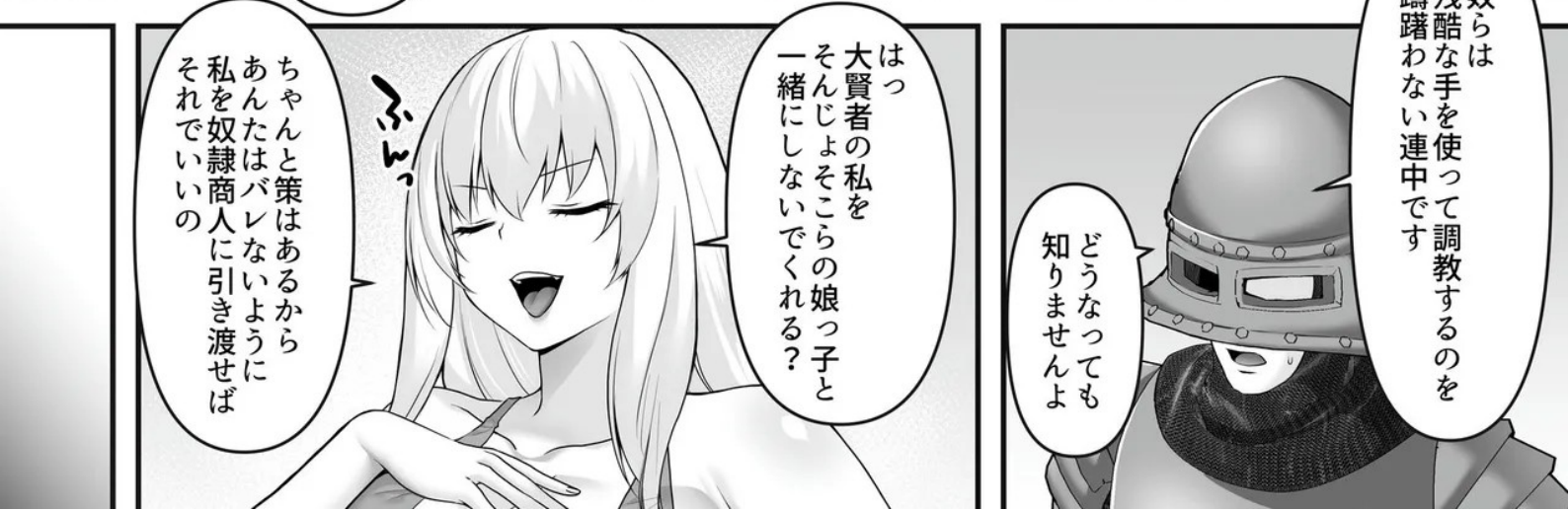
サフィラは  
自身を奴隷として  
組織に売り内部から  
調査をしようとしていた



：確かに  
囮調査でよく取られる  
手段ではありますが

でしよう？  
私はここ何十年か  
表舞台に出てないし  
気付く者はいないはずよ

高値をつけられる自信はあるし  
重要な奴隷候補として  
敵の本拠地に入れれば  
容易に詳細が掴めるわ

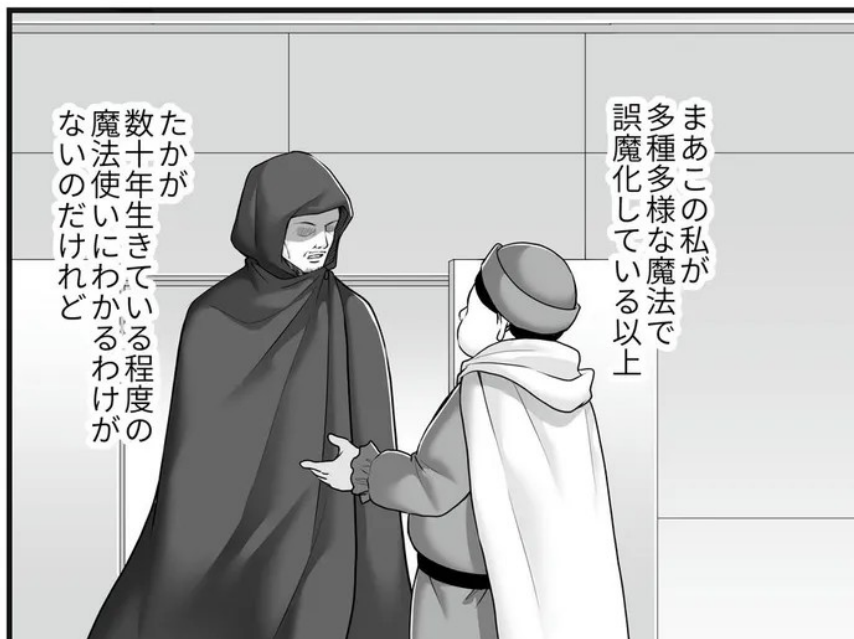
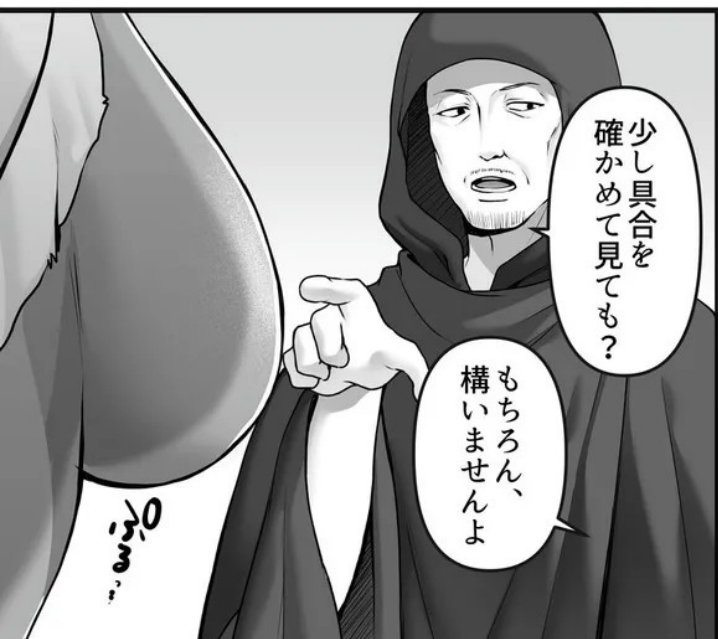


奴らは  
残酷な手を使って調教するのを  
躊躇わない連中です

どうなっても  
知りませんよ

はっ  
大賢者の私を  
そんじよそこの娘つ子と  
一緒にしないでくれる？

ふっ  
ちゃんと策はあるから  
あんたはバレないように  
私を奴隷商人に引き渡せば  
それでいいの





ヒューッ

ちよつとは  
反応して見せた方が  
いいのかしら？

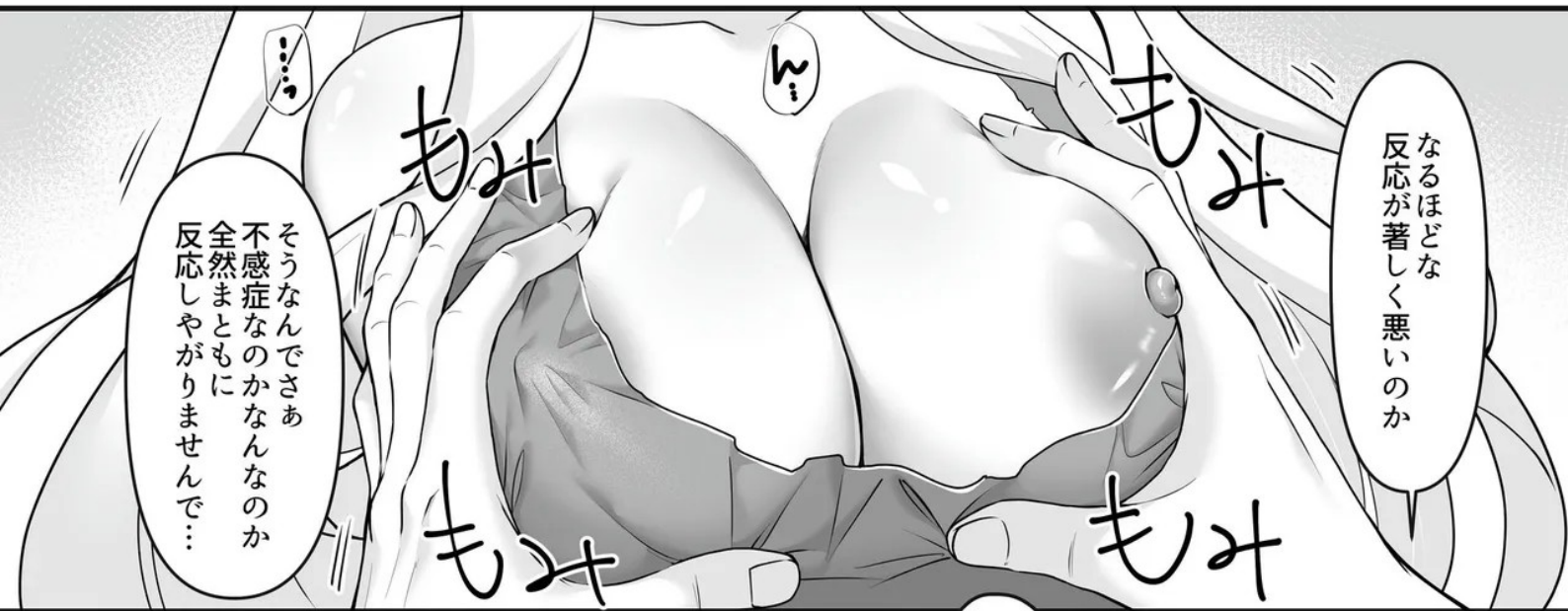
ん……っ



ふん…

ヒューッ

性交のことしか  
考えられない愚猿が  
触れたところでなんにも  
感じないけれど



なるほどな  
反応が著しく悪いのか

そうなんでさあ  
不感症なのかなんなのか  
全然まともに  
反応しやがりませんで…

もみ

ん

もみ

もみ

もみ



うちの薬剤師や  
魔術師でも  
どうにもなりませんでした

なるほど

こういうのを  
最上物に仕上げるのは  
うちの領分だな

任せておけ  
こいつを男のモノを見るだけで  
発情する最高の奴隷に  
仕上げてやるよ

もみ

もみ

ここは私たちが  
実験や繁殖に使っている  
地下施設だ

万が一  
逃げ出したところで  
地上に出ることなど  
出来ない

いくら叫び声を上げても  
誰も助けになど来ない

お前が  
ここから出られるのは  
上質な奴隷として  
認められた時か

死んだときだけだ

おい、  
新しい素材を  
連れて来たぞ



頑張りましたまえ

君は繁殖奴隷行きだね

ああ、  
残念ながら時間切れだ



はがして!!

アアア!!



まっ



そちらが次の  
奴隷候補かな?



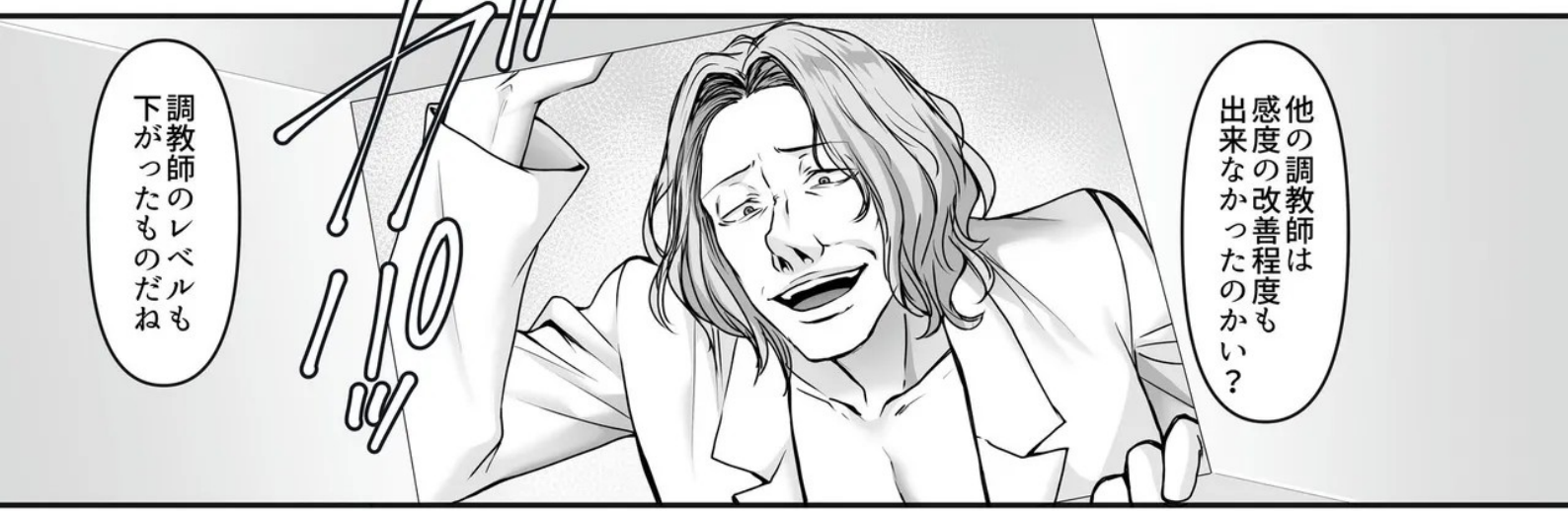
相変わらず  
趣味がいいな



触れるだけで絶頂して男に喜んで奉仕するような仕上がりで頼む

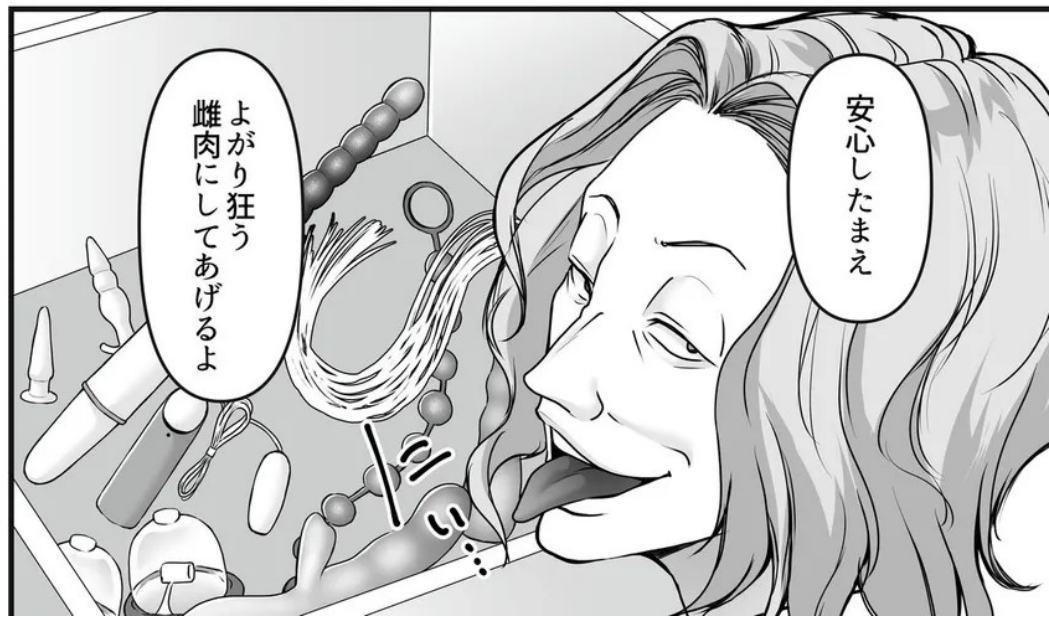


この通り見た目は満点なんだが反応が悪くてな



他の調教師は感度の改善程度も出来なかったのかい？

調教師のレベルも下がったものだね



安心したまえ

よがり狂う雌肉にしてあげるよ

数日後

くそっ  
こいつの身体  
どうなっているんだ？

ギシシ...

普通の女なら  
呼吸困難に陥るくらい  
絶頂し続けている  
はずなのに

神経系統が  
死んでやがるのか？

んうっ

全く気付いている様子はないわね

特別な魔法を使っているというのに

感覚遮断魔法——

それは体が感じた感覚を  
全て遮断することが出来る  
魔法だった

かつて彼女が  
魔王討伐の旅を  
していた頃

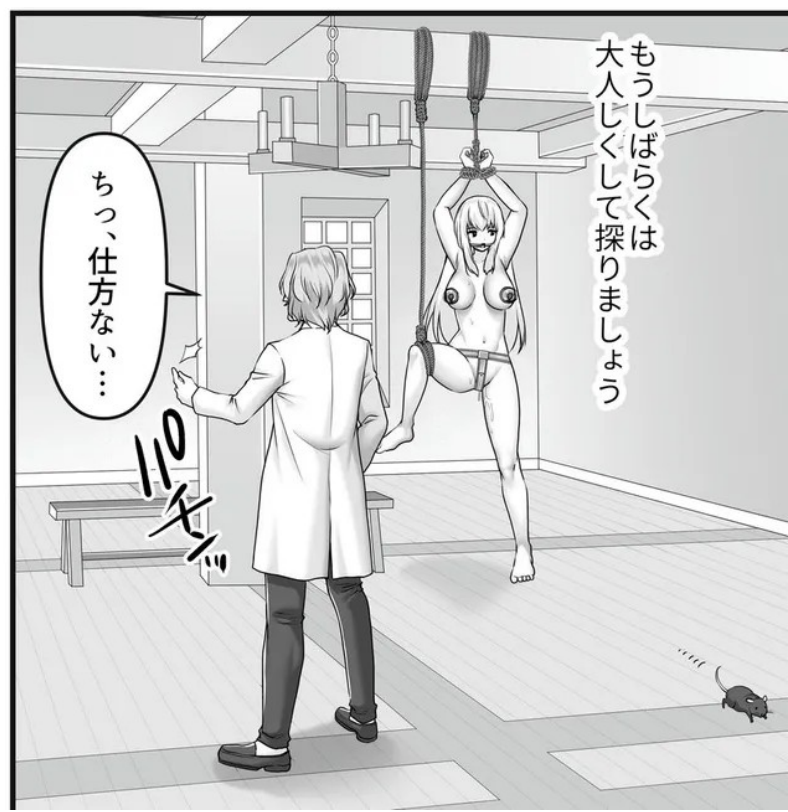
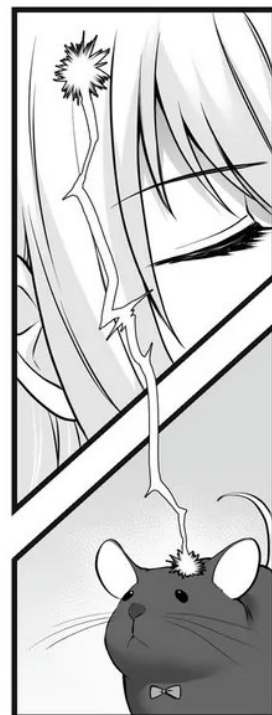
仲間が戦いの中で  
重傷を負っても  
戦い続けることが  
出来るようにするため  
生み出されたものだ

サファイラはその魔法を  
改良し性的快感のみを  
遮断することに成功していた

つまり——  
魔法を解かない限り  
いかなる方法でも  
彼女を絶頂させることは  
出来ないのだ

焦っているわね

あれだけ豪語したんだから  
できませんでしたとは言えない  
でしょうしねえ





うわ……っ



フラ……

フラ……

よしよし、立派な苗床になったようだね

うあー、

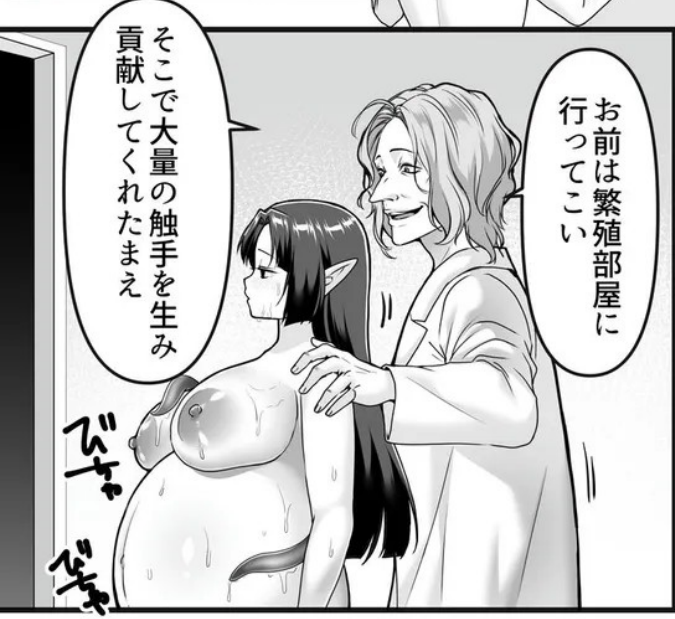


ヌキ……

クキ……

ホト……

ふふふ……恐ろしいかい？



お前は繁殖部屋に行つてこい

そこで大量の触手を生み貢献してくれたまえ



君にプレゼントするのは一本だけだ

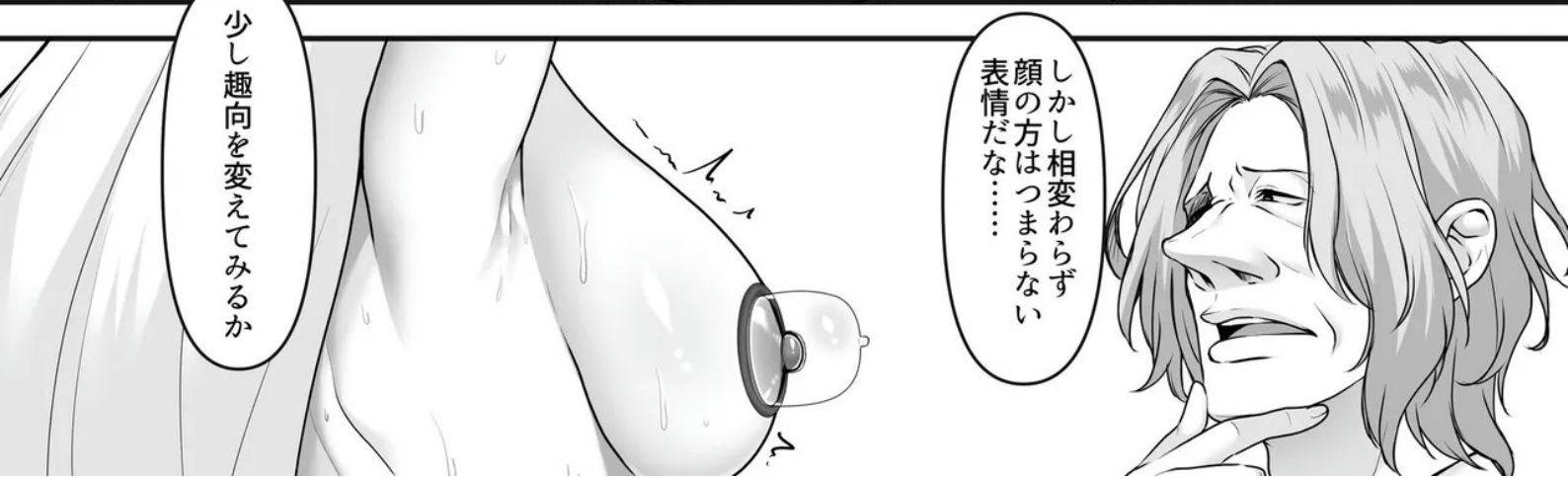
びぢびぢ  
ス……



あれと同じように苗床にするわけじゃないから安心したまえ

う……

う……

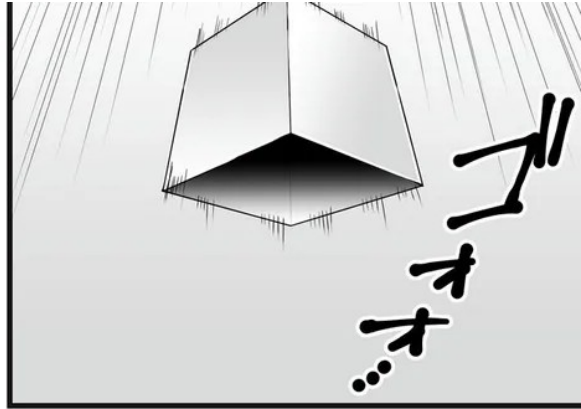




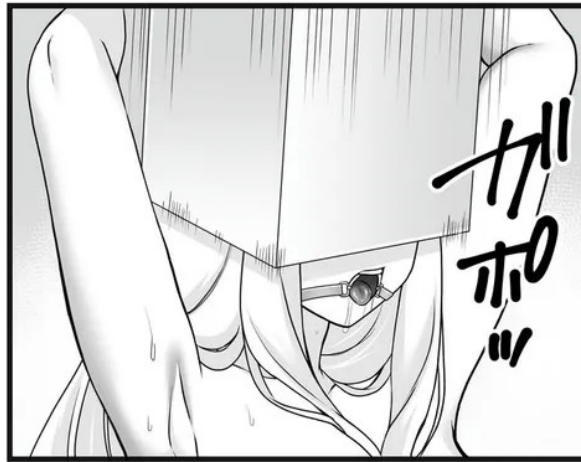
井物さ...

これだと  
何をどうされているのか  
わからない.....!

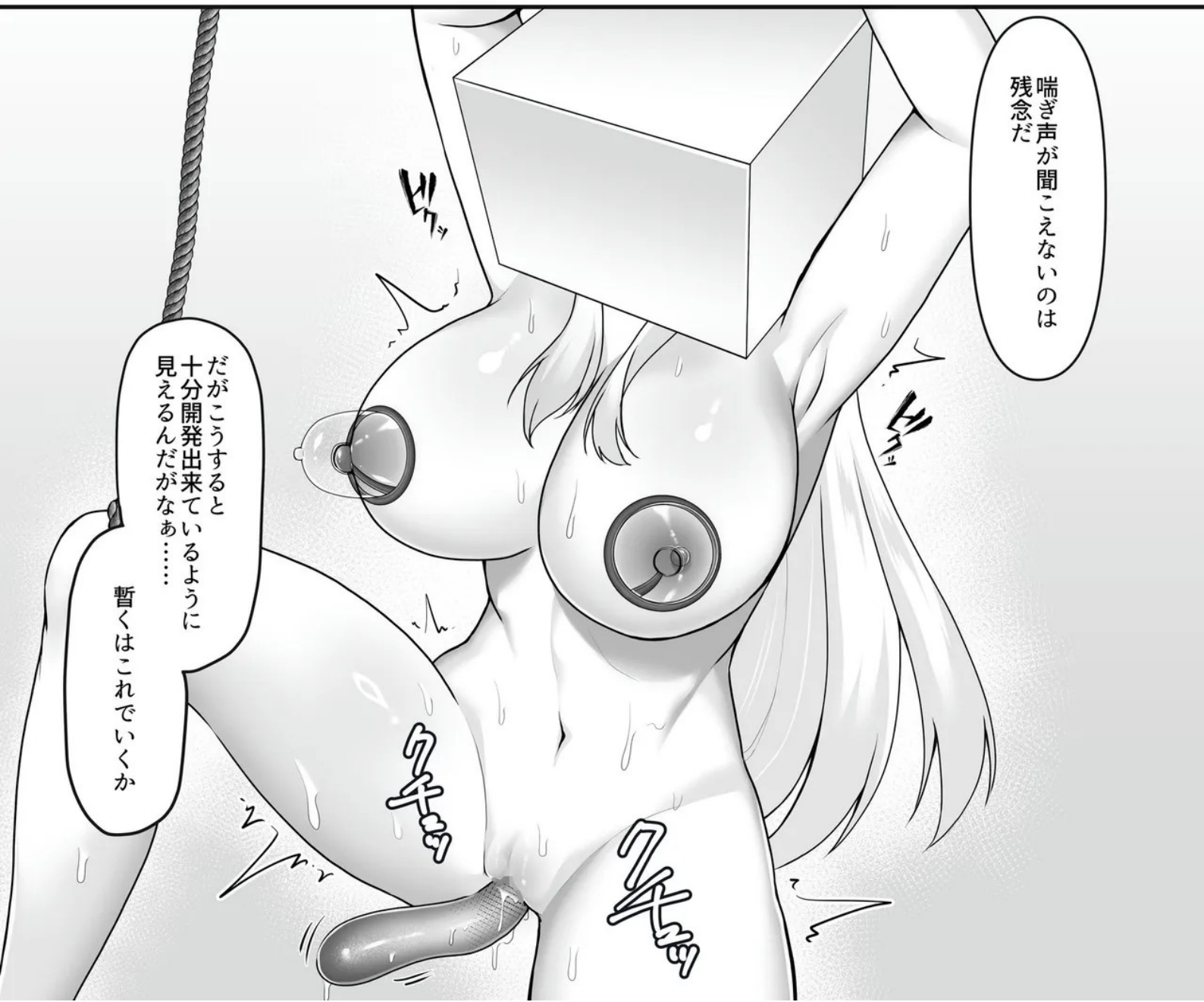
かといって  
感覚遮断魔法を  
解くわけには  
いかないし.....



ゴ  
オ  
オ



ガ  
ホ



喘ぎ声が聞こえないのは  
残念だ

だがこうすると  
十分開発出来ているように  
見えるんだがなあ.....

暫くはこれでいくか

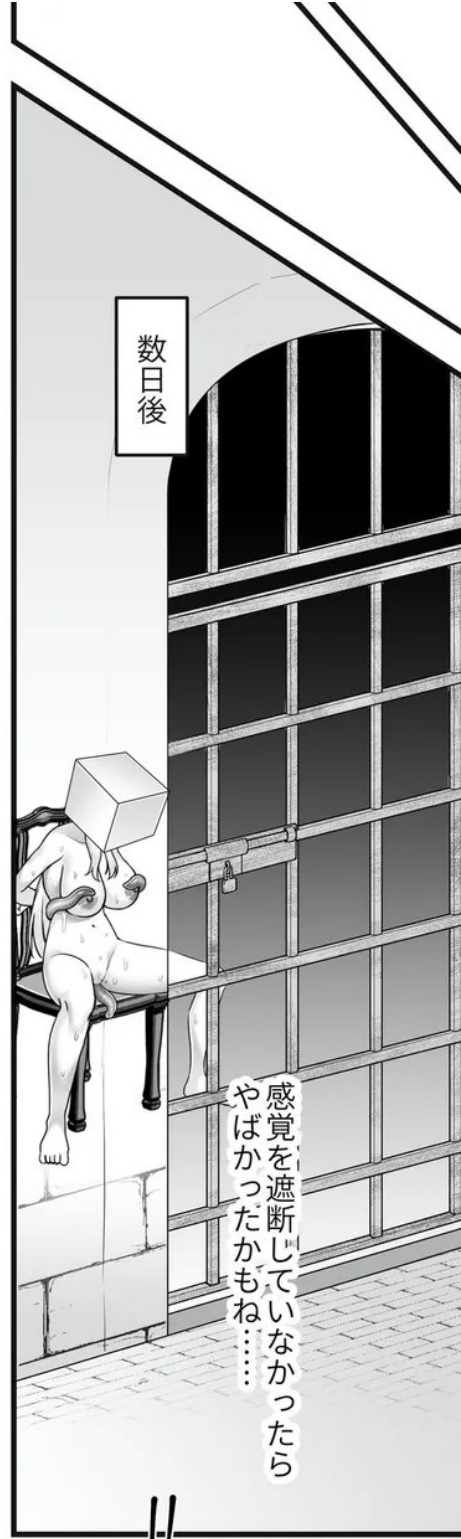
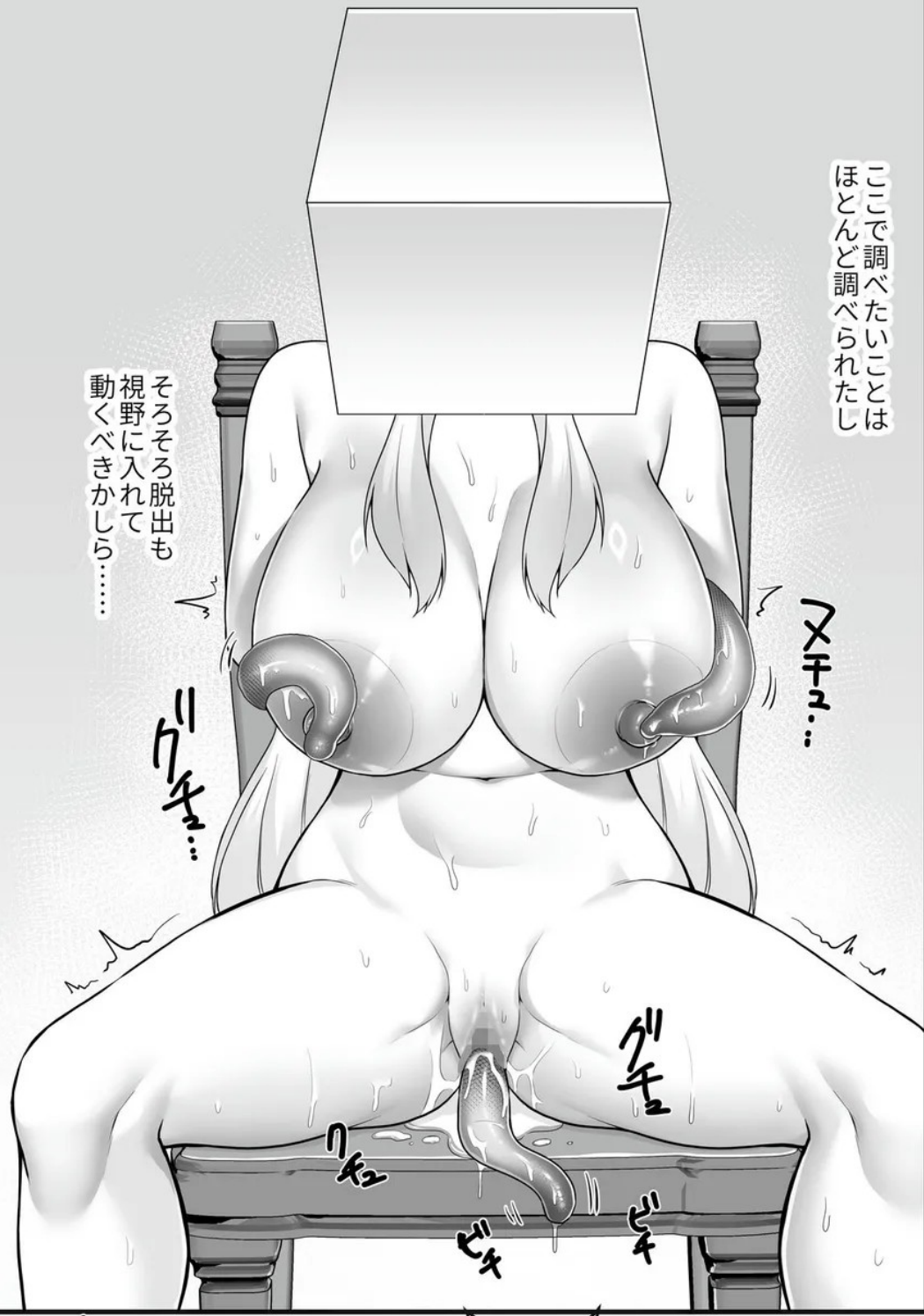
ク  
ク

ク  
ク

数日後

ここで調べたいことは  
ほとんど調べられたし

そろそろ脱出も  
視野に入れて  
動くべきかしら……



感覚を遮断していなかったら  
やばかったかもね……



今日の調教の時間だ！



出る！



どう考えても  
体の開発は  
進んでいるんだ……



くそ……っ  
こんな厄介な  
案件だなんて  
聞いてないぞ……！



私に言われても……

子供の時から  
感覚が鈍いと  
言われていたから  
そのせいでは？



なんで頭の  
脳の開発が進まない！  
お前の体は  
どうなってるんだ！？



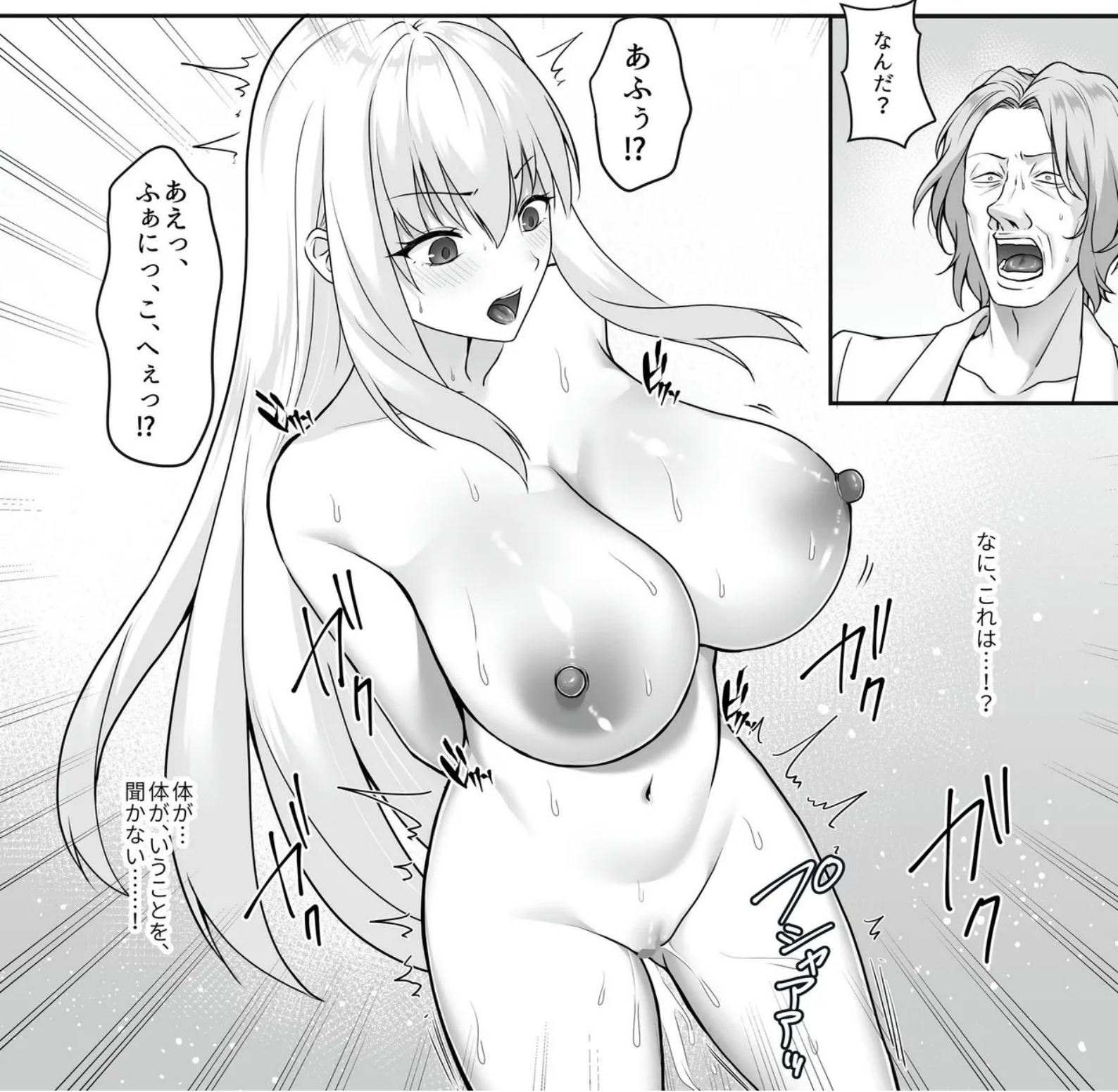
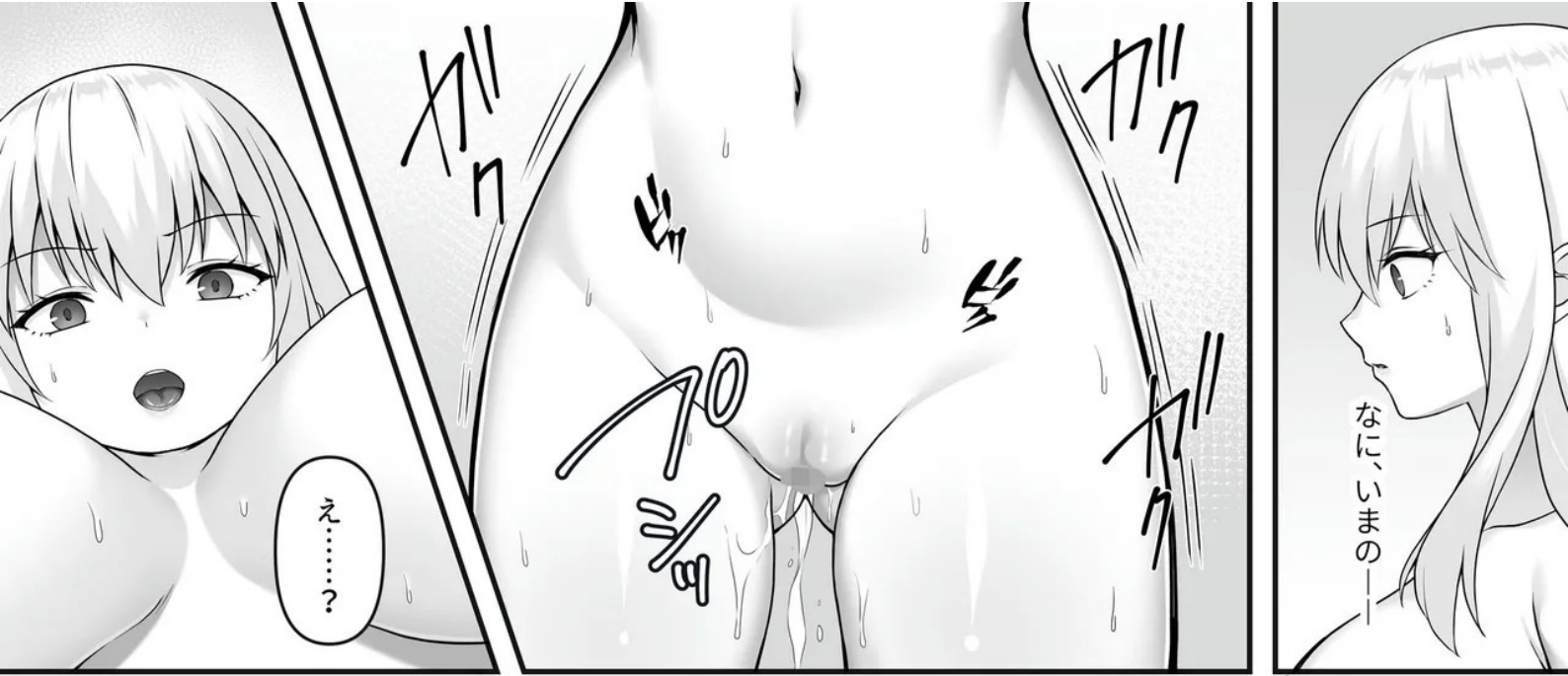
感覚遮断魔法を緩めて  
魔法を使えるようにしないと……

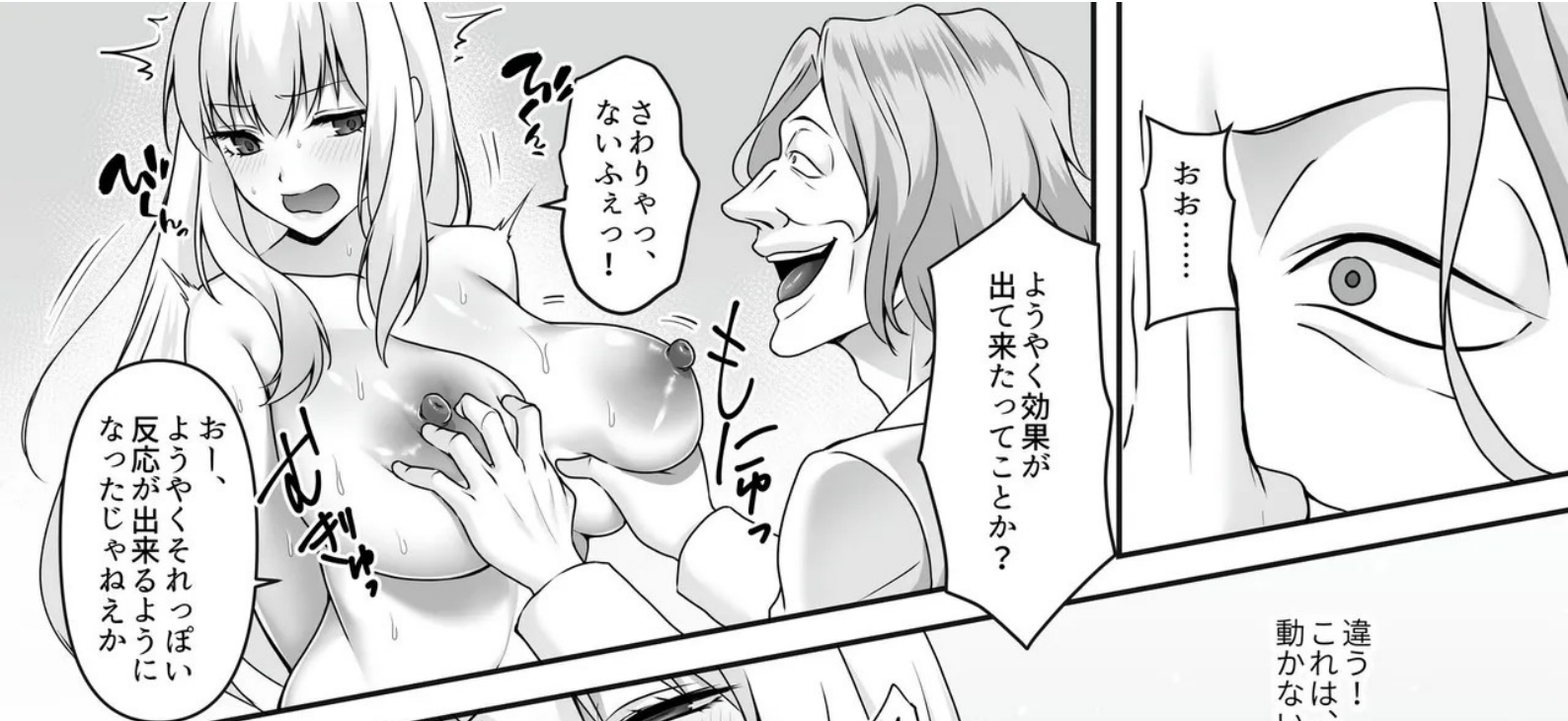


それじゃあそろそろ  
脱出しようかしら



先天性の  
疾患というわけか  
だがそれなら  
その感覚を無理矢理  
起こしてやれば  
いいはずだ……  
こんな仕上がりでは  
とても満足して  
いただけないだろう





おお……

ようやく効果が  
出て来たってことか？

さわりやつ、  
ないふえっ！

おー、  
ようやくそれっぽい  
反応が出来るように  
なったじゃねえか

違う！  
これは、体が上手く  
動かないだけで……っ



感じてなんか……！

やっぱり、  
高だけあって  
効くんだな

感度倍増薬を  
原液でぶち込んだ甲斐が  
あるってもんだ

なんてことを……！  
普通なら発狂レベルの  
快感を叩き込まれてるって  
ことじゃない！

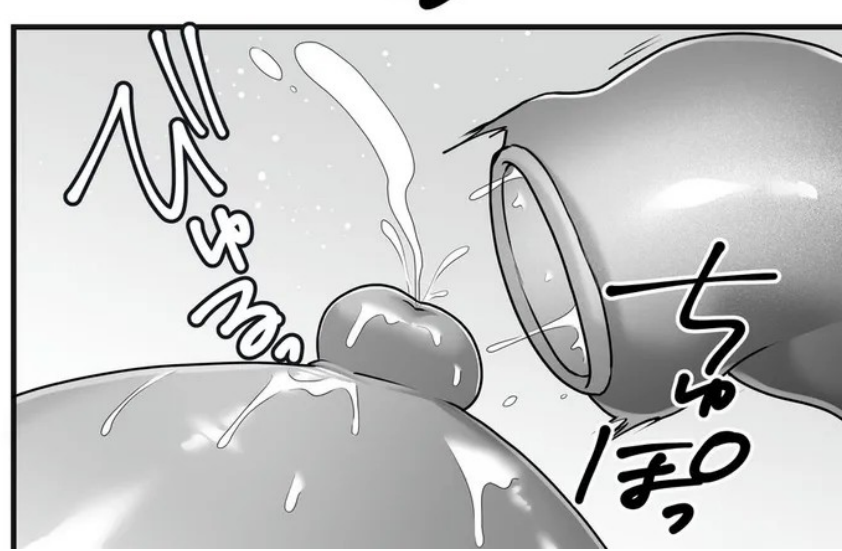
感覚を遮断していなかったら  
調教対象を壊して  
終わっているでしょ！？

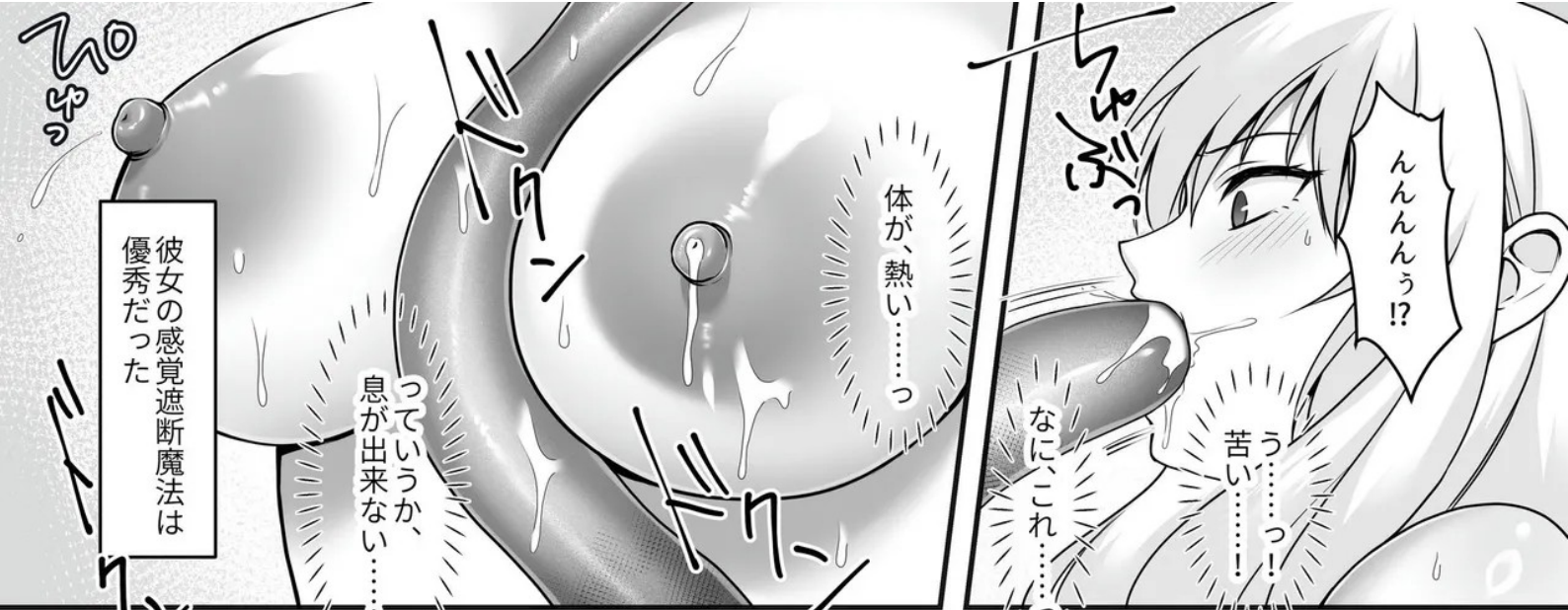
これだから  
プロ意識の低い凡夫は……！

もういい！  
もう脱出して、  
さっさと解毒の魔法を  
かけなきゃ……！

体がおかしくなっちゃう……！







んんんんう!?

う……っ!  
苦い……!

なにこれ……っ

体が、熱い……っ

っっていうか、  
息が出来ない……!

彼女の感覚遮断魔法は  
優秀だった

事ここにいたってても  
サフィラは自分の体から  
快感を覚えていけない

だが明らかに  
尋常ではない刺激を  
えられていることは明白

頭ぼーっと、  
して……っ

やばい……っ

サフィラは  
感覚遮断魔法を解く  
踏ん切りがつけられなかった

魔法を使うためには  
現在発動させている  
感覚遮断魔法を  
解除しなければならない

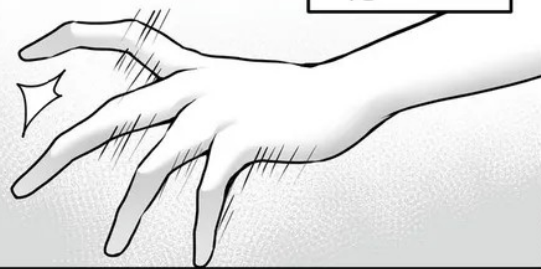




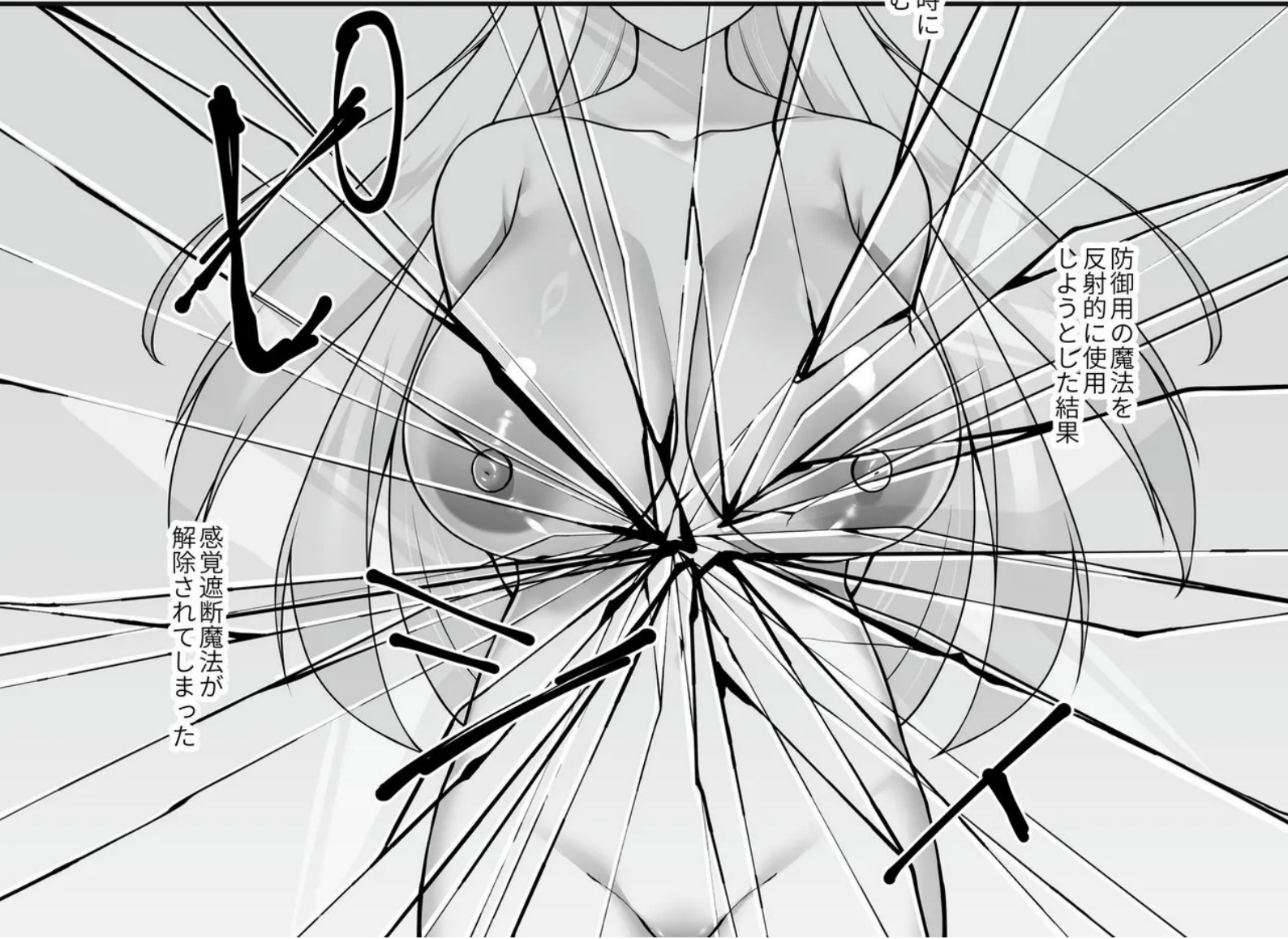
異常なレベルの快感を  
与えられたサフィラの体は  
その原因を排除するために  
魔法を発動させようとしていた

それは彼女の身体が  
本能で行った  
ことだった

だがそれは——  
致命的な事態を  
引き起こす

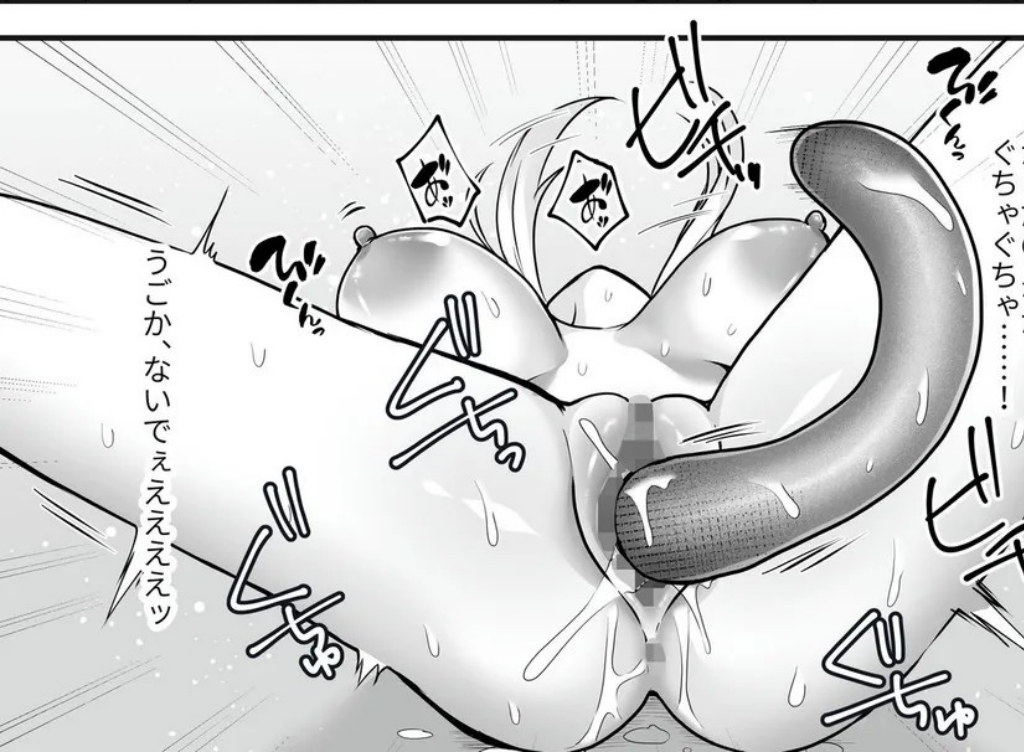


防衛本能が行った  
反射行動  
熱いものに触れた時に  
思わず手が引っ込む  
背傷反射のように



防衛用の魔法を  
反射的に使用し  
しようとした結果

感覚遮断魔法が  
解除されてしまった





んひっ!



よし、一端出る

こいつは調教のし甲斐がありそうだ

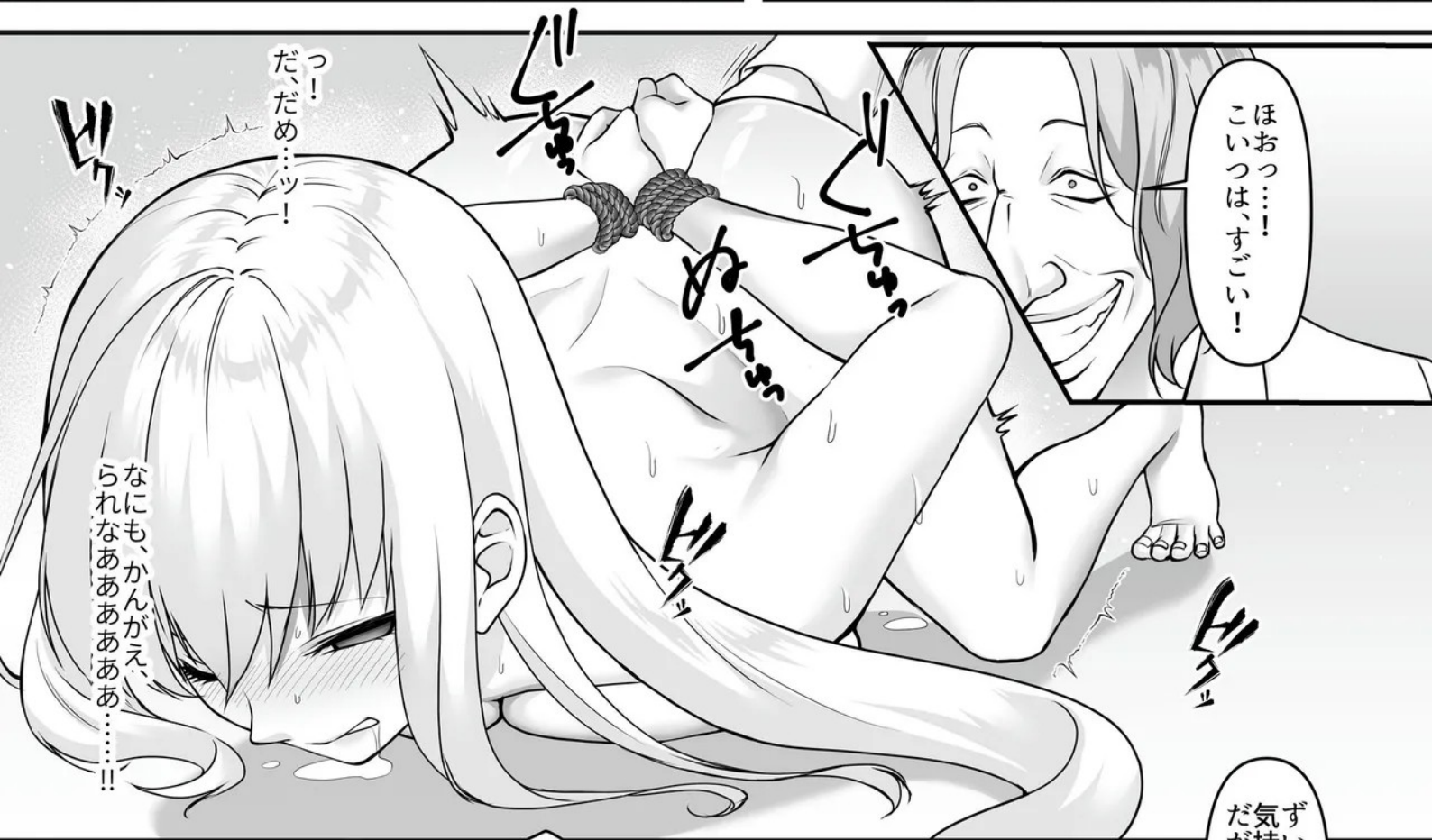


んあ……っ、おあ……っ、おあ……っ

Large black scribbles and symbols, including a large 'X' and '…'.

ガクガク

ガクガク



なにも、かんがえ、られなああああ...!!

だっ! だ、だめ...!!

ほおっ...! こいつは、すごい!



ずいぶんと、気持ちよさそうだが...

ああああっ!!

...っ! いま、ヤラ、調教師らしい、ことを...!!

誰が、そんな...

気持ちよくして欲しいのなら、それ相應の態度があるだろうか?

こっちの穴も、何か入れて欲しいようだが?

そんな、ことお...!!



入れて欲しいと言え



『卑しい奴隷の私にどうか  
ご主人様の肉棒を  
恵んでください』と

お願い出来たら  
考えてやる



んぎっ、  
きもちいい……ッ！

いグツ、  
いぐウウツ……！



だれが……っ！  
あなたが如き  
凡夫に……！

んぎっ、  
きもちいい……ッ！

言わないなら  
全身をガチガチに  
拘束して放置するぞ

腕も、足も、顔も、  
全部グルグル巻きにして  
指先一つ動かさせなくする

指先一つ動かさせない  
何も見えない暗闇の中で悶える  
その地獄に放り込むぞ

そんな、そんなの…っ！

イヤア…!!

卑しい、  
奴隷の私に…  
どうかご主人様の  
肉棒を…!!

おね、  
お願い、します……

恵んで、  
ください……!

全く、  
手古摺らせ  
やがつて……!!

おらっ!  
お望みのチンポだ!  
心して味わえ!

んひいいいっ!

遅れた分、  
しつかり奴隷として  
やるからな!  
振る舞いを叩き込んで

あひいいいっ……!

こうしてサファイラは  
体も心も奴隷に  
墮とされてしまった――

サファイラには  
容赦のない調教が  
加えられた



様々な責めを加えられ  
奴隷としての完成度を  
高められたサファイラを

クシクシ  
ハイ

いよいよ奴隷市場に送られることになったその日――

国王の直属軍がそのアジトを摘発した

くそ……ッ、なぜ、ここが……!!

最近やたらと高価な薬や道具を運び込んだらどう?

あのレベルのものを仕入れれば当然足も着きやすくなる

かなり長期間巧妙にやっていたのは随分な手落ちだったな

いやあ、見事な  
罠調査でした

自らを餌にすると聞いた時は正気を疑ったがものでした

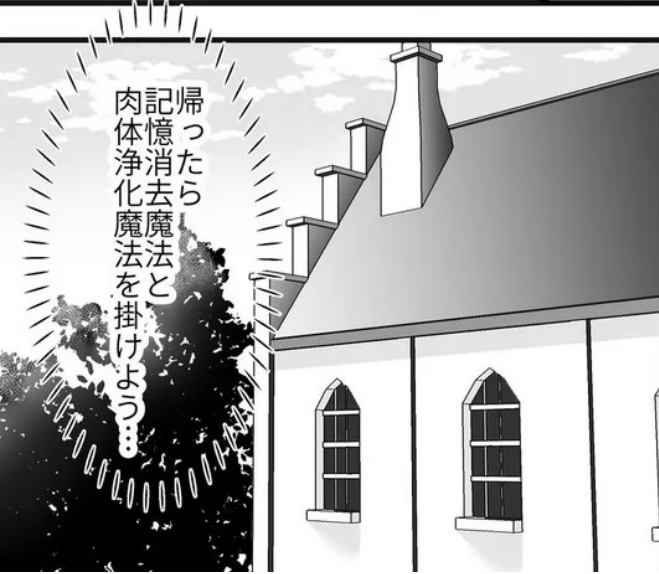
あなたという逸材を攻略するの躍起になった調教師の行動で

犯罪組織を摘発することが出来ました



さすがは伝説の大賢者様です感服いたしました

あなたが正しかったと認めざるを得ません



帰ったら記憶消去魔法と肉体浄化魔法を掛けよう



ぜんぶ、計画通り、よ……



ふふふ……

## あとがき

お買い上げありがとうございます。作者のエルトリアです。  
こちらのシリーズはかなりご無沙汰になってしまいました。  
企画自体は2年前から動いていたのですが最初に発注していた漫画家さんが蒸発して  
再出発になったり再発注先も途中で執筆辞退したりで遅れに遅れてしまいました。  
(最終的にサークル所属の藍さんが描くことに)  
ともあれ完成して無事に出せてほっとしております。  
サフィラもアリシアと同じくサークルのIPとして育てたいんですけど中々苦戦中です。  
(なんか知らんけどこの子の企画はトラブルが多い)  
サフィラは強い癖に油断しがちで腋が甘かったり時々アホの子で可愛いんですけどね。  
今回の作品が好評だったらもう一作品くらい新作を考えてみようかと思います。  
次回は寄生触手服やりたいですね。  
タイトルは『寄生賢者』とかどうでしょう(´ω´)  
パラサイトラバー系統の作品がご無沙汰なのでアリかもしれない。  
気になった方は是非是非、支援サイト等でコメントください。  
同人活動は孤独な戦いなので貴方の感想が作者を救います(大袈裟  
ではでは、また次回作でお会いしましょう！

エルトリア

### 「遮断賢者」

発行日：2025年10月7日

発行者：エルトリア

印刷所：西村謄写堂

連絡先：<https://ci-en.dlsite.com/creator/10273>

聖華快樂書店の各種リンクはこちら



無断転載、複写、複製、配布などの行為を固く禁じます。  
Unauthorized reproduction prohibited



